

沖縄防衛局長
伊藤 晋哉 殿

宜野湾市長 松川 正則

鹿児島県屋久島沖におけるオスプレイの墜落事故について（要請）

令和 5 年 11 月 29 日 14 時 40 分頃、鹿児島県屋久島沖において、米空軍横田基地の CV-22 オスプレイが墜落し、搭乗員 1 名が死亡する事故が発生しました。残り 7 名の搭乗員についても、依然として行方不明という状況であり、当該搭乗員らが無事に救出されることを願うばかりです。

普天間飛行場には、事故を起こした同型機である MV-22 オスプレイが 24 機配備され、昼夜問わず、日常生活を送る市民の頭上を飛行しており、その他の米軍機の飛行と併せ、市民は常に墜落の危険性や基地負担の中での生活を強いられております。

このような中、事故原因が究明されないまま、事故の当日から普天間飛行場で MV-22 オスプレイの飛行が確認されたことは、市民の不安をさらに増幅させるものと言わざるを得ず、到底容認できるものではありません。

まちのど真ん中にある普天間飛行場では、航空機による事故は直接人命に関わる事故に繋がりがねず、抜本的な解決のためにも一日も早い閉鎖・返還が必要であります。

つきましては、市民の生命・財産を守る宜野湾市長として、下記のとおり強く要請いたします。

記

- 一．事故原因の究明を早急に行い、その結果について速やかに公表すること
- 一．事故原因が究明されるまでの間 MV-22 オスプレイを飛行停止すること
- 一．普天間飛行場所属機全機の再点検及び必要な整備を行うとともに、安全管理の徹底及び確実な再発防止策を講じること
- 一．普天間飛行場の固定化は絶対にあってはならず、あらゆる方策を講じ、一日も早い閉鎖・返還と返還までの間の危険性の除去及び基地負担軽減を、最重要課題として目に見える形で取り組むこと